

司法試験道場でリベンジ合格する 2023

<2022 司法試験短答式試験>

3060 人→2494 人
合格者平均点 123.3 点
平均点 115.7 点 (175 点満点)
124 点が 1200 人
120 点が 1420 人

<2022 予備試験短答式試験>

13000 人→2829 人
159 点以上
合格者平均点 175 点

<2023 年司法試験・予備試験はこうなる?!>

①司法試験

- 難化の恐れあり。
- R4 年春入学者数 1968 名 (前年比 224 名増) (H27 年 2201 人以来の人数)
- 東大・慶大・早大・中大で 83 人増えた。

②予備試験

- 合格枠が空く可能性あり。
- ロー 3 年次の予備試験受験組が減るため。

③令和 5 年の試験まで 1 年以上ある (予備論文は 1 年 3 カ月ある)

- 例年がないボーナス準備期間。

<リベンジ・ロードマップ> 2 つのタームに分ける。

第 1 ターム：基礎固め

王道基礎講座・短文事例問題・短答過去問題・条文メイン。

第 2 ターム：実戦練習

旧司法試験過去問題・予備試験過去問題・答練メイン

* 本試験の場合、本試験過去問・答練がメイン。短答が 3 科目で負担が軽いので、第 1 タームで予備試験過去問題を扱うのもあり。

<絶対的防衛ライン>

- 年明けに「基礎体力不足にならないこと」。
- 来年の目標は「短答突破」ではないことの確認。

<答練の必要性>

- ・答練は必須＝新規の問題を解くトレーニング。
- ・添削は数より質。
- ・添削が本島に教育効果を持つのは、過去問題レベル。
- ・多くの添削をこなすより、個別指導の方が絶対良い。

<重点ポイント>

- ・短答過去問題は全部やる
- ・基本論点の確認
- ・判例を重点的にやること
- どのような訴えだったのか
- どの要件の話なのか
- 事実の評価の仕方
- 仕組み解釈の仕方
- 判例のすみわけ、など。
- ・条文は普段から引くこと
- ・暗記の時間を取ること
- ・手を広げないこと
- ・具体例を思い浮かべる癖をつけること

<司法試験突破に必要な「スキル」>

5 T o o l P l a y e r を目指す

- 基礎力
- 事案把握能力
- 論点抽出・選別能力
- 事案分析能力
- 答案作成能力

基礎力

条文・定義・制度趣旨・要件・効果・基本論点・重要判例（事案と規範と評価部分）の「正確」な「理解」と「記憶」。

事案把握能力

スピーディーに問題文を読みきり、事案を把握する能力。

→ 「文字情報のビジュアル化能力」

論点抽出・選別能力

問題となりうる論点に気付き（抽出）、論点毎のメリハリ（選別）をつける能力。

- 「A ランクだから厚く書く」わけではない
- 「規範部分を厚く論じるのか、軽く書くのか」
- 「問題文の読み方」スキル

事案分析能力

「本件事案の特殊性」に気がつく能力。論文試験最大の山場。

- 事実の「抽出」と「評価」

答案作成能力

2時間で形式・実質両面で問いに応えた答案を書き切る能力。

<論文答案の基本的骨組み>

- ・ 事案の問題提起（何故本件でその論点を論じるのか）
- ・ 規範定立（原則と例外，必要性和許容性，第2次規範としての考慮要素、趣旨）
- ・ 事実の抽出（重要な事実を抜き出し，規範と照合する）
- ・ 事実の評価（～と評価できる）
- ・ 結論（問いに答えているか）